

**製品名: ERK 1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10593**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	45kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MAPK3
別名	MAPK3; ERK1; PRKM3; Mitogen-activated protein kinase 3; MAP kinase 3; MAPK 3; ERT2; Extracellular signal-regulated kinase 1; ERK-1; Insulin-stimulated MAP2 kinase; MAP kinase isoform p44; p44-MAPK; Microtubule-associated protein 2 kinase; p
遺伝子 ID	5595.0
SwissProt ID	P27361
免疫原	抗血清はヒト p44MAPK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 161-210

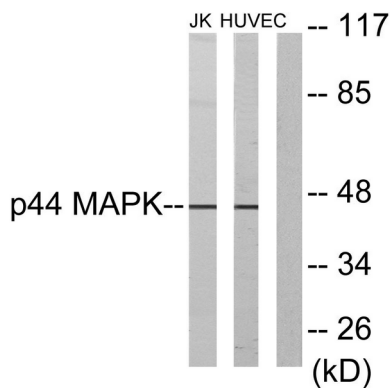
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MAPキナーゼファミリーのメンバーです。MAPキナーゼは細胞外シグナル制御キナーゼ (ERK) としても知られ、様々な細胞外シグナルにตอบสนองして、増殖、分化、細胞周期の進行といった様々な細胞プロセスを制御するシグナル伝達カスケードにおいて機能します。このキナーゼは上流のキナーゼによって活性化され、核に移行して核内の標的タンパク質をリン酸化します。異なるタンパク質アイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、補因子: マグネシウム。、ドメイン: TXYモチーフには、リン酸化によってMAPキナーゼが活性化されるスレオニンおよびチロシン残基が含まれています。、酵素調節: インスリンおよびNGFに反応してチロシンリン酸化によって活性化されます。、機能: ELK-1などの多数の転写因子をリン酸化することにより、分化細胞における減数分裂、有糸分裂、および有糸分裂後機能の開始と調節に関与します。EIF4EBP1をリン酸化します。翻訳の開始に必要です。微小管関連タンパク質2 (MAP2) をリン酸化します。SPZ1をリン酸化します (類似性による)。熱ショック因子タンパク質4 (HSF4) をリン酸化します。、PTM: Thr-202とTyr-204が二重にリン酸化され、酵素を活性化します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。MAPキナーゼサブファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、サブユニット: MORG1と相互作用します (類似性による)。HIV-1 Nefに結合します。この相互作用により、そのキナーゼ活性が阻害されます。HSF4およびNISCHと相互作用します。、

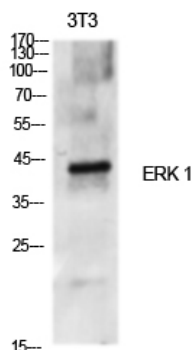
## 研究分野

血管新生の制御、微小管の制御、アクチンダイナミクスの制御、幹細胞経路、T細胞受容体、インスリン受容体、細胞増殖、Toll様タンパク質、MAPK、ERK増殖、MAPK、Gタンパク質、B細胞抗原、PI3K/Akt、mTOR

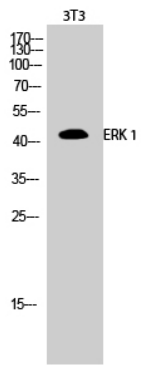
## 画像データ



p44 MAPK抗体を用いたJurkat細胞およびHUVEC細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ERK1ポリクローナル抗体を1:500に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



1: 500 に希釈した ERK1 ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析